# 月桃（げっとう）通信 No13　2019年5月14日

石原艶子

## 「朝鮮半島南北統一を祈る旅」

**死ぬ日まで天を仰ぎ　一点の恥じることなきを　葉あいにそよぐ風にも　わたしは心傷んだ**
**星をうたう心で　全て死にゆくものを愛しなくては　そしてわたしに与えられた道を**
**歩みゆかねば　今宵も星が吹き晒される。【訳：曺亨均（チョー・ヒョンギュン）が朝鮮日報に掲載したものを坂内宗男が訳したものです】**
**【尹東柱（ユン・ドンジュ）韓国の詩人1917～1945　ハングルで詩を書いたことが治安維持法に触れ、福岡刑務所に服役、27歳で獄死】**
**「義のために迫害される人々は幸いである。天の国はその人たちのものである。」**
**（マタイ福音書5：10）**

**★韓国平澤（ピョンテク）基地とDMZ（38度線非武装地帯）人間の鎖**

朝鮮半島の平和を願う韓国訪問団に沖縄からの31人の仲間の一人として参加させて頂けたことを心から喜び感謝しております。この旅を通して学んだことの一端をお伝えしたいと思います。
まずDMZ民十平和の手をつなぐ宣言文、――4・27板門店宣言一周年を迎えるわたしたち
宣言文の中から一部を抜粋してお伝えします。
『南北の首脳が板門店で出会ってから一周年を迎えようとしている今日、私たちは3・1独立宣言百年と臨時政府誕生百年を讃える2019年の初めに立っている。戦犯の国日本が分断されなければならなかったのに、歴史は平和を愛するこの民族に荷物を背負わせ分断70年の苦しみを与えた。しかし歴史は「始まりがあって終わりがあるのではなく、終わりがあるから始まりがある」という言葉の通り、この地で今日私たちは課題を解決し民族の歴史を新しく書き加えて行こうとしている。日帝統治下の弱小国家でありながら、国の道義を強く訴え、世界平和を念願した先人たちの3・1宣言の精神に添って、私たちもまた、鉄条網を取り払い戦争を終わらせ、この地と世界の平和を願っていこう。―――戦争の終わりと平和体制を築くために全力を尽して声に出し念願しながら、南北の山河を祝福しよう。―――DMZ「非武装地帯」と呼ばれるそこはどのような地であっただろうか。南北を始めとし、十数ヶ国から理由なく徴収された若者たちが目をつむることのできないまま死んでいる所だ。そして南と北が互いを害するために数え切れないほどの地雷を埋めた空間ではなかったか。今も死んだ彼らが、死してなお戦争のない平和を叫んでいる。その山河が生命を破壊するすべての隠された武器を捨てよと命じている。この地をこれ以上死の大地にしてはならないと死者と自然が繰り返し叫んでいる。共に歩き手をつなぐ私たちもやはりここDMZで彼らの声を聞きながら、彼らの意思の後を追って歩く。―――。』この宣言文の一言一言が日本人である私の心につき刺さってきました。戦犯の日本は分断されることなく朝鮮戦争を特需としてアメリカに協力し、経済発展をし戦後の復興を成しとげました。兄弟の国である朝鮮を分断させた事実さえも忘れている日本人、歴史を学ばず、いや

なことはなかったことにまでする歴史修正主義まで生れる恥ずかしい国日本。韓国の民が負った苦難の歴史、そこから湧き上ってくる民族の誇りと自信と行動力のすばらしさ、歴然とした両国民の違いをまざまざと見せつけられました。私たち沖縄の民もまた、差別され切り捨てられた民だから、沖縄と言うだけで一体感が生れ互に手を取り合って喜び、人間の鎖に参加できたことの歴史的意味は大きいと思いました。無念の屍が埋まっているＤＭＺに共に立ち、魂の底から湧き上ってくる民の意志と力、平和への祈りを私たち日本人が共にすることは恨（ハン）を解き放つ行動だと思いました。統一旗と、来られない友人から託された南北統一と書いたうちわを手に掲げて南北統一を祈りました。一人の小さな祈りは多くの人々の祈りに合せられ、力強い祈りとなったことを実感し、感動と感謝に溢れる中で南北統一の日は必ず来ることを確信しました。

**★チョロン平和観光**

平和展望台から見渡す北朝鮮の山々は木が全くなく茶色、韓国の山々は豊かな緑色。北は燃料に山々の木を燃やし尽し、その生活の厳しさ貧しさ、飢えは計り知れません。茶色の山々の向こうから北の民の悲痛な叫びが聞こえてくるようでたまらない気持ちになりました。民を助け守ることこそが正義であり、制裁によって民を苦しめることをやめ、温かい援助を送って、粘り強い対話的努力によって朝鮮戦争の終結宣言がなされますように、歴史が大きく動く日が早く来ますように祈りました。決して二度と朝鮮半島を血で染めることがあってはならないと強く強く思い願いつつＤＭＺの地を後にしました。

**★ピョンテクの米軍基地フィールドワーク**

嘉手納のように広大な米軍陸軍基地です。ゲート前はものものしく厳重な警備体制、抗議行動も沖縄のようにゲート前で行うことなど出来ません。一人で立つことしか許可されませんので、ピョンテク平和センターの人たちが交替で一人ずつ、24時間立つのだそうです。軍事訓練により日常生活は不安にさらされ、空気・水の汚染など環境悪化、沖縄と同じ基地被害に苦しめられています。この基地が拡張される10年前、強制退去が命じられ、村民は立ち上り毎夜ローソクに火を燈して、素手で立ち向い血と涙の闘いをしました。農民の土地を奪うやり方は沖縄の銃剣とブルドーザーと同じ、基地は暴力によってしか造れない人殺しの暴力装置であります。別地に移住させられ新しい村を作り、人々は平和センターを中心に大地を耕しながら基地と向き合い闘い続けていることは沖縄と全く同じでした。世界中に800個位もの米軍基地を持つアメリカ、世界を混乱に落し入れる戦争国家アメリカの底知れない罪の深さ!!それに従属協力し、兵器の爆買いをする日本という国の哀れさ悲しさ、罪深さに言葉を失ってしまいます。

**★統一トラクターで分断を越えよう―北朝鮮にトラクター100台を!!**

ピョンテクの市役所前広場にて、北朝鮮に新品トラクター100台を!!の集会に参加しました。統一米5㎏で5千円を購入したらその半額はトラクターカンパにという地道な取り組みで既に28台は確保されたとのこと、一日も早く制裁が解除されて、北につながるこの道路に100台の新品トラクターが北に向うその光景を想うと心が躍動しました。分断された民族が愛と祈りによってひとつになろうとするこの人々の心を思うと涙が出ました。私たちは皆様と共に心ひとつにして統一旗を手に掲げながら広場をデモンストレーションする１台の新しいトラクターに拍手を送りました。統一は北の民を助け

る愛から始るのだと強烈に教えられた感動の集会でした。偶然にも参加できた幸いを感謝しました。

**★慰安婦少女像との出会い**

日本大使館前の少女像がここに居てくれること、何と勇気のいる苦しみの道のりだったことでしょうか。まだあどけなく可愛い15～16歳位の純なる処女は目に涙をためて足は裸足、両手を固く握りしめていました。像の裏側の路面を見るとそこには老女となった影が黒く描かれていたのです。そして老女の心臓には大きな白い蝶が描かれていました。慰安婦にされても決して奪うことの出来ない魂、人間の尊厳こそ蝶の姿だと思いました。勇気を出して慰安婦像となって下さった老女の魂のことを思い胸がいっぱいになりました。この少女像の前に建っていた日本大使館は壊されてさら地となり覆い隠されていました。大使館はビルの１階を借りているそうです。きっとこの少女像の前に集る多くの人々を見ることに耐えられなかったのではないでしょうか。何故この少女像の前にひざまずき謝罪しないのですか。謝罪なくして平和は築けません、ここにもまた天皇制にからめとられた日本人の、兄弟をも見下す傲慢、高ぶりを見た思いでした。

**★韓国の大地**

平澤（ピョンテク）も鉄原（チョロン）も広大な穀倉地帯です。地雷原となった荒地を命かけて開拓した人々の村もあります。農地の一部は今も検問所を通って日の入りまで作業をする通いの農地が豊かに広がっていました。大地に生きる逞しい韓国の農民達がこの国を根っこで支えていることが分ります。農を大切に、自国の大地に生きる民あってこその国だと思いました。

四月、桜の花吹雪が美しく、野の花に彩られた田園は水が張られ、田植えが始っていました。大地の上に命が脈々と息づいていました。まるで故郷に帰ったような大地の息吹に包まれて農が永遠でありますように、決して大地を地雷や放射能で殺してはならないことを、平和は大地の上にこそありとしみじみ思う旅でもありました。

**★沖縄から**

５月１１日の琉球新報、辺野古移設は着実にしますと、米国防長官代行と菅官房長官が握手しています。２０１９年の今、琉球は、天皇の代替り新元号に国民がよいしれている今、またもや天皇制の下に琉球処分が行われたのです。沖縄に民主主義はありません。何故、ひと言でも沖縄県民は圧倒的に反対していますから造れませんと言えないのですか。私たちはゲート前に座り込み、安和の港での抗議行動をもっと強化していくしかありません。韓国の民との連帯は大きな力となっています。本土の平和を希求する多くの友人達と共に非暴力の戦いを続けていきます。

【№１２号訂正箇所のお知らせ】

・2ページ3段目

与那国島では既に（誤）1年前自衛隊基地は完成し

（正）3年前自衛隊基地は完成し

・2ページ10段目

（誤）一機100億円もの戦闘機を100機購入し

（正）一機 140 億円もの戦闘機を 147 機購入し